

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792520017		
法人名	社会福祉法人 心愛会		
事業所名	グループホーム ハーモニー磐梯		
所在地	〒969-3301 福島県耶麻郡磐梯町大字磐梯字山道366		
自己評価作成日	平成26年1月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成26年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様(利用者様)が楽しみや役割を持って生活できるような関わりを多く持っています。施設で生活していても四季を感じ、地域の中で生きているということをお忘れずにいられるよう、外出の機会を多く持ったり、地域の方々を施設のイベント時に招待したりと交流を図っています。
ハーモニーという名前の通り音楽療法には力を入れており、月に2~3度の法人内の音楽療法士による唱歌などを歌って楽しむクラブの実施、2か月に1度の法人外の音楽ボランティアの方による演奏会など、音楽を通じた働きかけに特に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念を基本とし、事業所独自の目標を管理者と全職員で話し合い、利用者本位のケアやチームワーク、ゆとりを持った行動で安心した生活ができるよう取り組んでいる。地域の行事に積極的に参加し、利用者・家族と地域住民の方との交流を図っている。家族の意見を取り入れ、一人ひとりの生活リズムに合ったケアを基本にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を事業所内に掲示し、毎日の朝礼時に全出勤職員で唱和し、理念を共有している。	理念を通して、管理者と全職員でどんな介護をされたいか、したいのかを話し合い目標を決めている。日々のケアの中で、目標を意識し、きづいたことを伝え合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	多くの地域の方々にお越しいただけるよう、催しや行事を定期的に行っている。また地域の文化祭や町内の行事に積極的に参加して交流を図っている。	近くのショッピングセンター・役場等に行事のポスターを掲示していただき、地域の方へ参加を呼びかけている。毎年、事業所の雪かきのときには、近くの高齢者宅の雪かきもするなど、継続して交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用しご家族様や地域の関係者様への支援にういて報告している。また地域行事の参加や町内への買い物等、日々の生活の中で理解を深めていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の活動を報告し、会議メンバーからいただいた助言を基にサービスの向上に向けて取り組んでいる。	事業所の運営状況についてオープンな話し合いが行われ、経営状態を心配してくれる親身な意見をいただいている。ケアについて家族の方からいただいた意見を職員全員で共有し、利用者のサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場担当者、保健師、包括支援センターとの地域ケア会議で情報の共有を図り、サービスに関しての助言をいただいている。	書類の提出など頻繁に出向き、運営や実情などを伝える機会をつくっている。職員の勤務状況や定着について心配してくれるなど、日頃から気にかけていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者および全ての職員が身体拘束の勉強会を実施し知識を得ている。身体拘束廃止委員会を毎月開催し、日々の業務の中でも身体拘束が行われていないか検討している。	身体拘束はしないという考えで、日々のケアに取り組んでいる。ことばの拘束などは、話しかけのトーンやさりげなく寄り添うなど工夫し、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修に積極的に参加し、職員会議や施設内研修などで教育システムを活用しながら職員の指導に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修、外部研修で把握してはいるが、実際活用に至ったケースはない。今後も勉強会などを行いながら制度の理解を深め活用できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様とご本人様に重要事項説明を行い、疑問点など十分な理解と納得をされたからの契約を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時や行事の時など日頃からご家族様と話しやすい雰囲気を作り、気兼ねなく意見や要望を伝えていただけるようにしている。また玄関にお客様ご意見箱を設置し、意見等を職員会議等で検討し、より良いケアに努めている。	訪問時や行事に参加していただき、意見や要望を話していただける雰囲気づくりをしている。みそ造りなどの行事の提案を反映させ、利用者・家族・職員が一緒になって取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はできる限り職員の気づきや意見をサービス改善に生かすことができるように努めている。年に数回本部役員との面談を行い職員が直接意見交換ができるように努めている。	利用者の生活記録を詳細にし、一人ひとりに合ったケアができるようにしたいとの意見があり、全職員で取り組んでいる。意見の出しにくい職員には、管理者から声をかけ、思いを聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得支援があり、資格取得後も資格を十分に活かせるような環境作りを行っている。業務についての評価を行い、昇格制度があり、職員が意欲を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育部門で法人内研修などで能力向上を促した接遇研修やリーダー研修等の学習指導がある。又、外部研修も積極的に参加できるような環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員の積極的な研修参加を支援している。研修等を通して交流をおこなうことで事業所のサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様の要望や不安に思うことが話しやすいような対応を心がけている。安心してサービスを受けていただけるよう、説明を十分に行い、信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時からサービスを開始するまで、家族様の不安や思いに耳を傾け、良好な信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様とご本人様のニーズを把握し、身体、環境、緊急性に考慮し、行政や関係機関と情報共有を行い、柔軟性のある対応ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事、調理、掃除などご本人様ができることはできる範囲でしていただき、一人一人が役割を持って生活できるような関係を築けるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との相談、連絡などを積極的におこない、行事などにも参加しご本人様の支援に関しての情報共有を図るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人の方が気兼ねなく来ていただける環境を整え、ゆったりとした雰囲気でご過ごして頂けるようにしている。又馴染みの床屋さん等へ通うことが出来る支援をして、今までの関係を大切にしながら支援に努めている。	利用者の希望で、買い物の途中に、友人・知人家に寄って話をするなどこれまでの関係を継続できるように支援している。地域や事業所の行事を通して、新たな馴染みの関係もできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係を把握し、良好な関係作りが出来るように心掛けている。孤立しそうなお客様には職員がサポートし、皆が関わり合いが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も御家族やご本人を面会し状態の把握をしながら必要に応じて相談をおこなう体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様の意向は日々の関わりの中で情報収集を行い、朝礼時やミーティングの中で周知、情報の共有を行っている。ご本人様の意向の確認が困難な場合にはご家族様に協力をいただきながら、ご本人様にとっての最適な生活とは何かを検討している	おはなしの日やあなたの日を設け、利用者職員がゆっくり話しをする時間をつくり、思いの意向をくみ取るようにしている。一人ひとりの生活歴を把握し、利用者の昔好きだったことや喜ぶことを見つけ、日々のケアに取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や趣味、生活パターンなど、今までの生活が継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活の情報把握し、お客様本位の過ごし方に沿ってケアが提供できるように、モニタリングを行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング後、状態の変化に伴う新たな課題の発生時には家族、担当者話し合い計画の検討をしている。	本人・家族・看護師・職員が話し合いながら、一人ひとりに合った個別の具体的な介護計画を作成している。状態変化に応じてその都度話し合いを行い、柔軟な見直しもできている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日常生活記録の見直しを行い個々の情報を共有しやすいものになっている。ミーティング、会議での情報交換を元に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のニーズに応じて、外泊、外出への支援を行っている。受診や買い物等も柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し町内行事への参加をし、ご本人様の楽しみある生活を維持できるように支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町の医療機関が少ないが、家族も長年通院していた病院を希望されている。通院時はご家族様に事前に生活状況をお話したり、必要があれば職員が受診に同行し、様子を聞いたり伝えたりするようにしている。	本人・家族の希望するかかりつけ医、医療機関に受診できるよう支援している。家族の方が受診に同行できないときは、看護師が代行している。受診の結果は家族に伝え、情報を共有し適切な支援をしている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内での状態の変化を看護師が把握し、医療機関に相談、ご家族様への報告など迅速に適切な医療が受けられる体制をとっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護サマリー(要約)を施設で作成し、医療機関に持ち寄り、また退院時は計画作成担当者、看護師がカンファレンスに出席し本人の情報共有や相談をおこなっている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	アセスメントの際に急変時の対応などをご家族様に確認している。また、対応できることとできないことをその都度説明し、ご家族様にご理解をいただき重度化をむかえた場合の相談支援をおこなっている。	利用開始時に、重度化や終末期の対応について利用者・家族に説明している。状態変化時には、その都度本人・家族と十分話し合い、医療機関と協力し統一した支援をするようにしている。職員の研修を法人として行い、知識を深め適切な対応ができるようにしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や外部研修を通して緊急時対応を訓練している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中及び夜間想定避難訓練を実施しお客様が安全に避難できるようにしている。	消防署の協力を経て、地域の方に参加していただき、休みの職員も参加して、安心・安全に避難できるよう訓練を実施している。職員の役割分担があり、状況の確認を忘れず、迅速に利用者の避難ができるよう取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の研修でマナー研修をおこない言葉掛けや対応について学習している。排泄介助や入浴介助でもプライバシーに配慮した対応を心がけている。	利用者がしてほしいくないこと、嫌なことを把握して一人ひとりの人格を尊重し、否定しない言葉かけやケアに努めている。利用者同士で、プライバシーを損ねるような話のときには、職員がさり気なく間に入り、場所を変えたり、話題を変えたりして対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中からご本人様の希望や思いを把握するように努めている。できるだけ自分で決定できるように時間の過ごし方、衣服の洗濯、おしゃれ、嗜好、外出レクなど対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるかぎり本人のペースで過ごしていただけるようにお部屋にテレビを置いてもらったり、本人の選択の幅を広げた生活ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方はおしゃれの日を決め、職員と楽しみながらおこなえるようにしている。また、訪問理美容を利用し定期的にカットや整髪ができる機会をもうけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様と一緒に野菜の下ごしらえ、味付け、盛り付けなどをおこなっている。また、個々の希望を聞き定期的に外食をして食事を楽しむことができるようにしている。施設でのラーメン屋台やいろいろパーティー等普段と違った食事を楽しむ機会も作っている。	パンや麺類を食べたい人や、塩分を調整する人など一人ひとりに合った、メニュー作りをしている。利用者と職員が一緒にテーブルを囲み、介助をする職員も話をしながらゆったりと食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アセスメントや医療機関との連携を実施しご本人様に合わせた食事形態の把握、摂取量の把握をおこなっている。又、日常生活記録では食事量や水分量が解るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをご本人様の能力をみながら声掛け、介助をおこない、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としご本人様の状態に合わせて、排泄ケア委員会が中心になって一人一人の排泄パターンや支援方法を検討し、快適な生活の支援につとめている。	排泄パターンに頼らず、自立に向けて言葉かけに工夫し、トイレに行く気持ちになって貰えるようさり気なく誘導している。失敗しても本人の負担にならないよう、気分転換などを図り、周囲に気づかれないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認をおこない医療機関の指示のもと下剤でのコントロールをおこなっている。水分量を増やすために、個人の好みにあった水分の提供、ゼリーの提供等排便を促す取り組みをおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の入浴の仕方を尊重し、本人の楽しみのある場になるように提供している。季節により、菖蒲湯、ゆず湯などを使用してより気持ち良い入浴をしていただく工夫をしている。	一人ひとりの希望に合わせた入浴支援をしている。入浴を嫌がる人には、職員を変えたり言葉かけを工夫するなどして、くつろいで入浴できるようにしている。体調を考慮し、無理強いせず清拭をすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて横になって休んでいただいたり休息の時間をつくっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設看護師が薬の管理を実施している。薬の名前や効果については個人の処方箋でいつでも確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のできる力を生活の中より把握し家事や掃除、畑仕事等役割をもって取り組むことができるように支援している。気分転換については、外出レク、買い物などをおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の中で買い物、散歩など体調にあわせて支援をおこなっている。年間行事計画をもとに、お花見や季節の花を見に出かけたり紅葉狩りや神社への参拝などその方に合わせて楽しみをもった生活を支援している。	初もうでや紅葉狩り、日帰り温泉に出かけるなど外出する機会を多くし、楽しんでいただけるよう支援をしている。利用者・家族の方に参加を呼びかけ、一緒に遠方に出かけられる行事計画を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族様、施設の判断もあり、金銭を自分で管理している方は少ない。急に必要なものが出た場合は施設で立替えて購入して買い物の支援をおこなっている。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人様が自宅や親戚、友人への連絡を取りたいと希望される場合は、事務所の電話を利用し自由に連絡を取ることができるようにサポートしている。又、楽しみとして季節のはがきをご本人様がご家族に送る等の取り組みもしている。</p>			
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>お客様の作品や写真などを飾ったりして馴染みやすい環境づくりを心がけている。季節感が感じられる花をいけてある。</p>	<p>利用者と職員の手作り作品や行事の写真などが掲示され、温かい雰囲気になっている。昔の映画俳優や歌手・スポーツ選手や電話・三輪トラックの写真が飾られ、利用者同士が懐かしんで話をするなど、憩いの場となっている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用スペースではテーブルの配置を工夫し、多人数で賑やかに過ごせる場所や少人数で静かにくつろげるような場所づくりをおこないお客様の居心地にあわせた使い分けをしている。</p>			
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている</p>	<p>居室にはお客様の使い慣れた物を持ってきていただき、落ち着ける環境を整えられるように、ご家族様に協力をいただいている。</p>	<p>はき出し窓になっており、部屋も明るく避難しやすい居室となっている。馴染みのものを自由に持ち込んでもらい、その人らしく暮らせる部屋となるよう配慮している。模様替えや衣替えは家族の方や職員が行い、整理整頓し気持ちよく過ごせるようにしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室には名前を表記し、できるだけ主体的に動くことができるような環境づくりを心がけている。</p>			